

文庫あれこれ◆お便りを書いている今(08.09.20に
 なったばかり)、伊豆地方は台風の真っ只中のようです。
 個人的には、嵐、大風、雷鳴、嫌いではありません。
 嵐に向かって大声を発すると自分の中のももやして
 いるものが、体から飛び出して行くような気がして。
 ◆きのう、あるおはなし会で、遠藤周作の短篇の中に
 5.15事件の目撃者R子さんの話を聞いた、というのが
 出てくるのですが、会の後、みんなであれば犬養道子
 さんね、という話が出ました。ここに来て未整理の文
 庫の山の上に何と偶然にも彼女自身の著作『ある歴史
 の娘』がのっていました。1980年刊のもので、若
 い頃読み飛ばしていたものが、初めの数ページを読ん
 で今、とても現実感を持って胸に迫ります。◆おまけ
 に文庫便りの表紙に今回は短歌を載せようかと、探して
 いたら、鶴見和子さんの最後の歌集『山姥』(我が去
 りし後の世に遺すことばとて九条を守れまんだらに学
 べ)を読んで、ああ、この時代の人にはまさに、歴史に
 直撃し、きっちり対応し、自分の精神の指し示す通り
 に責任を全うしてきたのだな、と思いました。◆今挙
 げた二人は特に歴史表に立たされた人ですが、今生き
 て残る70代から上の人々は多かれ少なかれその歴史
 の火の粉を潜り抜けてきたのだな、と。自分の立ち位
 置がわからなくなったら、人生の先輩に習うこと大で
 すね。◆新刊でない本の中にもすばらしいものがたく
 さん。探し出してご紹介したいと思います。みなさん
 もどうぞ、教えてください。◆ここではテレビを見ない
 のでその後は分かりませんが、公園で遊ぶこともこ
 わい世の中になりました。子どもも老人も社会全体、
 みんなで守らなくてはなりませんね。今日は内省的な
 あれこれになりました。◆リクエストした方、本が入
 っているので(殆ど)受付に申し出てください。でない
 と、何ヶ月も次の人に読まれないままです。◆寄贈本、
 いつもありがとうございます。子どもの本の全集もの
 をいただきました。大判の立派な本で、トルストイ童
 話集、シートン動物記、宝島、バンビ、あしながおじ
 さん、クオレ、千一夜物語、西遊記、ガリバー旅行記、
 小公女、家なき子、ルパンのうちあけ話、アルプスの
 少女、ピノッキオなどなど。違う訳者の同じ本もあり
 ますが、全集ものならでは懐かしいお話もたくさん。
 ◆今、東京荒川区でおはなしのボランティア講座をや
 っています。70過ぎて初めてです、ボケ防止と思って
 来ました、という方が結構多いです。でも憶えて聴い
 てもらった喜びを知ってもらおうと頑張っています。
 ◆来月の「秋の」おはなし会には、85歳の語り手が来
 てくれます。今でもどンドン新しいおはなしを吸収し
 て学校や老人ホームで語っています。元気をもらいに
 ぜひおいでください。◆日傘の忘れ物(ページとうす
 緑色2本)があります。◆今朝は台風も去り、空気が
 澄んで、大島がくっきり見える天気となりました!

(西村)

“ “これからの催し物のお知らせ” ”

秋の夜長のおはなし会

10月19日(日)夜6:00~8:00

おはなし

でえだらぼっち(日本の昔話)
 ラプンツェル(グリムの昔話)
 ことろのぼんぼ(創作絵本から)
 月光のうた(バルカンの昔話)
 八月の風船(野坂昭如作) ほか

語り手

伊藤倭子さん・神保倭子さん(まちだ語り手の会)
 &西村

★夜道は暗いですが、あたたかい気持ちになってお
 帰りになれます。お誘いあわせておいでください。

クリスマスおはなし会・お楽しみ会

12月21日(日) 午前10:30~12:00

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

- ◆10月は通常の第3土日(18,19日)です。
- ◆11月は 第3土日(15,16日)です。
- ◆12月は 第3土日(20,21日)です。

◆文庫の時間：土曜日は午後2時~5時、
 日曜日は午前10時~午後3時

◆毎月開館日の日曜には、「子どものため
 の小さなおはなし会」があります。

午前10:30~11:00

♥文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の
 土曜日の2日です(従って第3土曜日でな
 く第2土曜日ということもあります)。

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》

みんなで勉強会

★10月は18日(土)です。

(11:00~13:00)

沙羅の樹文庫便り

No.25 (2008年9月号)



(沙羅の樹文庫の入口を彩る秋の花・サルビアは緋衣草
 とも言う。)

新学期もはじまって、学校へ行っている人たちは、そ
 ろそろ運動会でしょうか?

片恋も サガンもはるか 熱砂踏む
 (松本和子さん)

いまだ冷めやらぬほてる思いだけ残して突然去った
 夏、にぎやかに鳴く虫の音に、耳を傾けるとき…な
 ぞと書き出そうかと考えていたちょっとセンチメン
 タルな気分は、台風13号の暴・風・雨(おまけにすご
 い雷鳴まで)に吹き飛ばされてしまいました。
 各地の被害の多からぬことを!
 明日は、台風一過となるでしょうか!

紹介・子どもの本 大人の本

★会員から会員へおすすめの1冊★

(文庫の棚の本を紹介していただいております。)

『時が滲む朝』(楊逸著 文藝春秋 2008.7)

中国人として初の芥川賞の候補作となって騒がれた前作『ワンちゃん』は結婚仲介人の話でおもしろくなかったので、この本も迷っていたのですが、新聞の書評がよかったので、興味を持ち、読んでみました。

日本語はやはりところどころ「？」という使い方や、漢字の「？」もありましたが、全体として、日本人とかわらない文章になっていると思いました。

お話は、2人の青年の大学入学、民主化運動への関わり、そして挫折、その後というものです。

最近、恋愛小説には、とんと食指の動かない私ですが、早朝の猛烈な寒さの中で、詩を朗読し、軍から払い下げの大きなコートをはおった少女と出会う場面など印象的でした。私自身がいいかげんな人間で、何かを夢中で追いかけたということがないので、こうした青年のひたむきな青春に惹かれるのかもしれませんが。文化大革命で迫害を受け、田舎の教師に甘んじているという主人公の父をはじめ、多くの知識人、文化人が虐げられたその時代のこと、そしてそんな時代には排除されてきた人間性豊かな文学作品にはじめて出会った若者のおどろきなどをとおして、「時代」の持つ力にも向きあいました。

「図書館」ということばに、過剰反応をしてしまう元司書の私は、「図書館で昼間、本を読みあさる……」2人にも好感を持ってしまいます。それから、テレサ・テンの歌で若い寮生がもり上がったたり、尾崎豊の歌で恋を表現するところなども、心に残る場面でした。

…と書いてくると、甘い青春小説のように思うかもしれませんが、決してそうではありません。読み応えのある本です。(中西景子)

☆☆☆☆ ☆☆☆☆

『最後の授業』(ランディ・パウシュ/ジェフリー・ザスロ著 矢羽野薫訳 ランダムハウス講談社 2008.6)

ドーデーの短篇小説と同じ題名のものがありますが、これは、若くして(46才)転移ガンが見つかり余命を宣告された、アメリカのカーネギーメロン大学でバーチャルリアリティーの権威として教鞭をとっていたパウシュ教授が、学生や彼の幼い3人の子どもたちに残したメッセージです。

ちょうど1年前の9月、大学の講堂を埋め尽した400人の聴衆の前で行われた講義のタイトルは、『子どものころからの夢を本当に実現するために』でした。

講義の内容が、彼の専門分野であるコンピュータ・サイエンスに関するものではなく、次世代を担う若者たちに心を寄せていたことに胸をうたれました。そして、どんな両親に育てられ、いかに多くの人の支えと励ましがあったかということがここに語られています。

とりわけ両親から、いかなる時も誠実であり、真実を語ることに、自分がした約束は守ること、と教えられたことに思いを起し、「親の仕事は、子どもが人生を楽しめるように励まし、夢を追いかけるように駆り立て、夢を実現する方法を助けてやることだ」と結んでいます。

人はみな、いかなる運命のもとにおかれても、ひたむきに人生に向き合い、努力し、夢を追いかけるという姿勢こそが、人生を楽しみ、生きる意味と価値を見つけ出す原動力になるのだという、熱い熱い思いが伝わってきます。特に、子育て中の親御さんにお薦めの一冊です。

パウシュ教授は、今年7月25日に亡くなりました。その翌日全米のテレビ局は、追悼番組を組み、彼の死を悼んだということです。また、過去1年間、この本はアメリカで月間ベスト10に長く入っていたと、アメリカ在住の娘がメールで伝えてきました。(福岡恵)

新しく入った本(08.07)

～子どもの本～

『わたし かがくのとも傑作集』(福音館書店)『おぼけと子どものおうさま』(PHP 研究所)『うちのおぼけ』(世界文化社)『みどりいろのたね』(福音館書店)『フン虫 やあ!であえたね5』(アリス館)『中国 17世紀動乱に生きた少女』(ポプラ社)『アリーの物語3 女騎士アランナの娘』(PHP 研究所)リクエスト『ラン』(理論社)『ルトウカのノート ナチスの犠牲になった14歳』(PHP 研究所)『クロニクル千古の間4』(評論社)リクエスト

～大人の本～

『怒濤のごとく』(早乙女貢著 原書房 2008)リクエスト
『ジャマイカの烈風』(リチャード・ヒューズ著 晶文社)『カモメに飛ぶことを教えた猫』(白水社)『壊れゆくアメリカ』(日経BP社)リクエスト『あけがたにくる人よ』(思潮社)『嘶まみれ三遊亭仙朝』(小学館 2008)『流星の絆』(講談社 2008)『篤姫の生涯 2008』(日本放送出版協会)『荒地の恋』(文藝春秋 2008)『新三河物語 上』(新潮社 2008)『きのうの世界』(講談社 2008)『四人の兵士』(白水社)『非正規レジスタンス』(石田衣良著 文藝春秋 2008)『スヌーピーの安心は親指と毛布』(主婦の友社)『秋の四重奏』(バーバラ・ピム著 みすず書房 2006)『アンゆりかご 村岡花子の生涯』(マガジンハウス 2008)『高麗奔流』(深田祐介著 文藝春秋)

『赤毛のアンシリーズ 全巻』(モンゴメリ著 村岡花子訳 新潮社文庫)リクエスト『大地 全4巻』(パール・バック著 岩波文庫)リクエスト『武士道歳時記』(光文社文庫 2008)

『ある歴史の娘』(犬養道子著 中公文庫)
評伝:『三島由紀夫』(川島勝著 文藝春秋)『父開高健から学んだこと』(開高道子著 文藝春秋)『人間・吉行淳之介』(山本容朗著 文藝春秋)『漱石の妻』(夏目鏡子著)ほか

★新刊は昨日の台風で影響なければ、今日届くはずなのですが……。